

2019年度

No 5 7月12日

松 籟



発行者

穴水秀人

言葉の大切さ

昨日の11日（木）、甲府市総合文化会館において青少年の非行・被害防止県民大会が開催されました。学校を代表して、私が参加させていただきました。その中で、「言葉」について再認識させられたことがあったので、ここに紹介します。

まず1つ目は、県内高校1年生の意見発表からです。彼女は、百人一首が小さいころから好きで、現在も趣味の一つとしてかるた会に参加しているようです。その魅力をこのように語っていました。「歌われている和歌は平安時代から鎌倉時代のものである。この時代は身分制度が厳しく、いつでも誰とでも会話を楽しむことなど到底できなかったため、自分の思いを精一杯歌に込め、間接的に伝えざるを得なかった。それぞれの歌に込められた願いがどのようなものなのか、思いをはせることがとても楽しい。」と。

そんな彼女の友達が、ある日体調不良で学校を休みました。電話をすることは申し訳ないと思い、母から借りたスマホで、「大丈夫？今日のプリント、家に持って行ってあげようか？」と送ったそうです。しばらくして、返事が返ってきたそうです。「オッケー ヨロ」と。後日その意味を本人に聞いたところ、相手にされず笑いながら聞き流されたそうです。彼女は続けて主張しました。「地球上で言語文化を持っているのは、唯一私たち人類だけである。あなたから発せられたその言葉に心はあるか。」と。

2つ目は、講演からです。演題は「スマホ時代の現状と対策」でした。その中で、このような実例が紹介されました。A子さんをリーダーとする数人の女子グループがありました。A子さんは、USJで買った熊のぬいぐるみを自慢しようと、ラインにアップしました。それを見たB子さんは、すぐさま「そのぬいぐるみ、かわいくない？」と返信しました。次の日から、その女子グループはB子さんを仲間から外し、ずっと無視し続け、とうとうB子さんは、学校に行けなくなりました。後日、事の成り行きが判明したそうですが、B子さんは、「かわいいぬいぐるみだね。」と伝えたかったのに、それがしっかりと伝わりきれず、A子さんは、「もしかしたら否定されたかもしれない。」と思い、それをきちんと確認もせず、B子さんにつらい思いをさせる結果となってしまったようです。

上記の例に共通していることは、気持ちや考えを伝えきれないあいまいな言葉を使用していることです。手紙にしても会話にしても、相手の存在（思いや考え）を無視しては、根本的に成立しません。また、相手に考えを伝えるためには、それなりの知識や技能も身に付けなければなりません。自分の気持ちは伝わるものだ、尊重されるはずだと勝手に断定せず、お互いの存在を尊重し合えるコミュニケーションができるよう日頃から意識し、力量をつけることが大切であると再認識しました。